

授業参観及び学校公開日に「体育の授業」を行う

教師の意識に関する研究

～小学校教師への意識調査を通じて～

熊崎 美和 (東京学芸大学)

1. 目的

本研究の目的は、「開かれた学校づくり」の一環として行われる授業参観や学校公開日で「体育の授業」を行うことに対して、小学校教師がどのような意識をもっているのかについて明らかにすることである。

2. 研究方法

- 1) 対象者：東京都の小学校教員 70 名（男性 30 名、女性 40 名）
- 2) 調査方法：質問紙調査法
- 3) 分析方法：SPSS24 統計パッケージを使用し因子分析（主因子法・Promax 斜交回転）を行い、抽出された因子と各項目に対して、2 群間は t 検定、3 群間は一元配置分散分析を行った。また、教師の属性と教師の意識の 2 要素に関してはクロス集計をかけ、 χ^2 検定を行った。自由記述で得られた内容は意味のまとまりごとに分類し、カテゴリ一名を付けて内容を検討した。

3. 結果と考察

- 1) 授業参観や学校公開日に体育の授業をする意義について、＜教師の力量形成とその誇示＞＜保護者の児童理解促進＞＜体育の内容の伝達＞＜保護者の人間関係の拡大＞の 4 点が抽出された。
- 2) 教師の「やりづらい」「やりたくない」という意識には、「参観者の存在」や、体育がもつ「安全面の徹底」「活動場面の多さ」「技能差が見えやすい」といった性質が反映されていることが明らかとなった。
- 3) 「参観される」ということが、自分の意

識に影響する教師も影響しない教師もいるということが明らかになり、経験を重ねると参観者の視線を意識しなくなったと回答した教師もいた。これは、授業者と参観者の関係性や、「体育を教える教師である自分自身」への自信の有無が関係していると考えられる。

- 4) 全体の 97% の教師が運動領域、40% の教師が担当学年によって教え易さが異なると回答した。挙げられた理由やその運動・学年の特徴から、「保護者の前では特に安全面に配慮していることを伝えたい」「できるだけ保護者の前で大きな技能差が視覚化されることを避けたい」という大きく 2 つの意識があると推測できる

4. 結論

本研究では、授業参観や学校公開日に体育の授業をする意義について 4 つの視点が明らかとなった。これらは「開かれた学校づくり」の意図と大部分で一致していると言える。一方で、小学校教師は「授業参観及び学校公開日での体育の授業」について約 74% の教師が「自信がない」と回答し、参観者の存在や体育科特有の指導の難しさなどが、教師の不安の要素となっていることが分かった。

5. 主な参考文献

- 1) 梅澤秋久 (2015) 教師の専門職的アカウントビリティに関する研究 -小学校の体育授業における保護者との合意形成に向けた連携に着目して-, 日本教育工学会論文誌 39(3):191 - 200.